

播州の中宗堂

本堂南脇に寄り添うように中宗堂がある。由緒深い別院にはたいていこのような堂宇を設け、蓮如上人のお木像をご安置している。本願寺ならびにその教団が偏に蓮如上人の真宗再興の志によって創設された歴史的事情をよく顕している。

播州の真宗は、蓮如上人の直接のご教化は史料上確認されないが、上人のご晩年より立ち上がり本願寺の西の拠点として重要な役割を果たした。江戸時代には本願寺から、江戸時代に本願寺から、この時期に、吉立が行われている。日本始まる時期に当たり興は西国の録所としてまで広大な範囲の門徒の参詣も多く、京都上山その為蓮如堂が建立される。江戸末期の火災に一年に再建されるが、り東西両本願寺に対しりその関係が一様考年に吉崎の中宗堂が外陣をもつ本格的な中寺のみが現存する。外が一回り大きい。



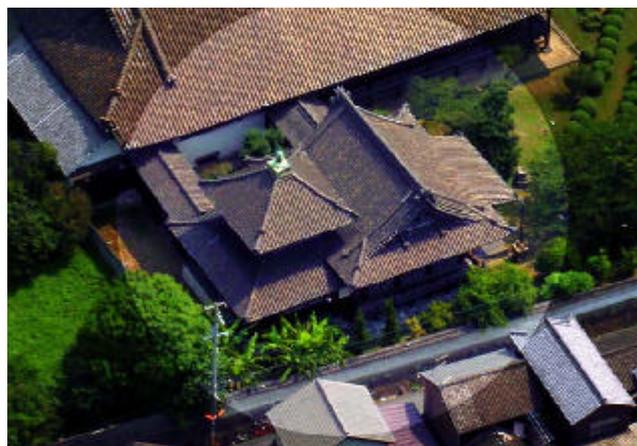
亀山本徳寺境内の中宗堂(本堂南に位置する)

してきた。このような経徳寺に中宗堂が建立さ崎や山科で中宗堂の建において庶民の観光が味深い。播州の本徳寺た播磨の真宗本寺とし崇敬を集めていたため、の代役も務めていた。されたことが推測される消失後、明治三十明治十五年、朝廷よて慧燈大師の下附があえられよう。昭和十八消失したため、内陣と宗堂は山科別院と本徳陣は本徳寺の建造物

内陣のお厨子には上ている。このお木像はしているお木像である。「あるとき上人が播磨の地に来られ、お念仏のお法りを播磨の人々に伝え、共に喜ばれた。しかし本願寺に帰らねばならぬ故、門徒衆がなげきなかしみ、ご逗留を願ったが適えられず、その代わりにご自作のお木像を残して行かれた。」という伝承がある。このような由緒は各地に散見され、荒唐無稽のものと思いがちであるが、その当時のお念仏を喜ばれた人々の身において考えると、今までとはことなる世界が見えてくるようである。

人お木像がご安置され身代わりの伝承をもつ

右の写真は山科別院の中宗堂である。妻入りの外陣を持ち本徳寺と同じ寄せ棟の内陣を持つ。



右の写真は本徳寺にある中宗堂である。外陣は山科と異なり平入りである。



中宗堂梁運搬繩の発見

旧中宗堂は一八六八年に旧本堂と共に焼失した。その後本堂は本願寺の北集会所を移築し一八七三年に完工したが、蓮如堂はしばらく再建の目処が立たなかった。蓮如堂の木材は宍粟郡や揖保郡など県内で調達した様子。梁材は、揖保川町半田の湯口重蔵氏の持山小神山から直径1メートルの松を切り出し、亀山まで運搬した。運搬用の大縄(直径5cm・長さ二十六丈・重さ十五kg)が重蔵氏の由緒書きとともに湯口家の納屋に残されている。由緒書きによれば、大縄を半田の村人総出で藁を綯い、運搬の労務を担ったことや、天井板のはめ込みの際、天井裏の梁の見納めとして本徳寺に招待されたことなどが記されている。(神戸新聞)